



東北の名峰の展望台！ 充実の全山縦走

神室連峰 杓蔵山～火打岳～神室山～役内口

佐貫他

【日時】 2011年12月29日(土)～2012年1月2日(日)

【メンバー】 L佐貫、田村、棚橋/宮内 (わらじの仲間)

毎年恒例の「冬合宿」。今年も総会の頃からこのための準備を始めた。本来検討していた祝瓶の篤志家向けルートは積雪量と日程の折り合いがつかず断念したが、神室連峰全山を縦走するというのも厳冬期にはそれなりに大変そうだ。しかも(よせばいいのに)水晶森・掛鉤森という地名に誘われてついつい計画書を大風呂敷に包んでメンバーに送ったところ、皆が乗り気な反応。正直なところそこまで完遂できる可能性はそう高くなかろうとは思いつつ、せめて前神室までの主稜線は踏破したいものだと祈るような気持ちで地形図を何度も眺める毎日。1年前と同じメンバーで同じ夜行バス乗り場に集合し、山行が始まった。今年は2泊3日で冬合宿を終えたくはない、頑張ろう。

12/29 曇のち小雪

夜行バスから新幹線に乗り継ぎ新庄へ。駅は夏の丁山地以来で懐かしい。すぐにタクシーで登山口へ向かう。運転手曰く、この時期としては非常に雪が多いとのこと。杓蔵山は平野の奥に、すぐ登れそうに見えたが、除雪は山の端にかかる手前で終わっていた。淡い期待を抱かせる踏み跡はすぐに横にそれ、いよいよここからは自力で歩くしかない。小雪の中を黙々と進む。山屋キャンプ場は当然やっていなかった。

林道を忠実に辿り、最後は尾根を直上して三角山へ。氷だらけのテレビ塔が林立していて不思議な光景だった。視界はやや悪くなり、新庄の町は見えなくなっていたが、無事杓蔵小屋に到着。時間的には早かったが、噂に高いこの小屋に泊まらないわけにはいかない。ここで英気を養って、その分明日頑張ろうということで一岡一致。玄関の雪を少し掘るとすぐ入れ、トイレも使えた。薪ストーブの火が順調に燃え始めると快適そのもの。大鍋に雪を入れてかけておけば、自動的に水ができる。中は非常にきれいで、薪や調理用具、食器、布団など揃えてあり、管理されている「新庄自然に親しむ会」の方々の気持ちまで伝わってくるようで、心身ともに実に心地よい一夜を過ごすことができた。

(田村記)

【ザックを下ろして】

荷物が重くてよれよれ。杓蔵小屋は快適。もう動きたくない…。(佐貫) / みなさんのお蔭をもちましてやっと山に出来ました。感謝感謝。快適そのものの杓蔵小屋にも大感謝。明日の天気は？(宮内) / 順調過ぎる行程。10年振りの快適な小屋に感謝。(棚橋) / いい小屋過ぎて、明日からの行程に耐えられるかな？(田村)

12/30 雪、風強し



柰蔵山荘は11年ぶりに訪れたが以前と変わらぬ素敵な小屋で、今回も快適な一夜を過ごさせて頂いた。今日の行動予定は長いので、6時には出発しようとしていた。しかし外は吹雪いていて視界が悪いので、もう少し明るくなるのを待つことにする。とは言うものの気が急くので、山荘で同宿した高校山岳部の先生から「この天気でも行くんですか」と言われる中、出発する。

相変わらず吹雪は収まらないが、行動を思い留まらせる程ではない。まずはコンパスに導かれて柰蔵山を通過する。それから先頭を交代しながら、Co854mの仁田へと達する。それほど酷いラッセルを強いられず助かった。ここでも方向を確認しただけで先を急ぐ。そんな頑張りの甲斐あって、予想以上の順調さで一杯森へと着く。雪の状態によっては、ここまでの可能性もあるかもと内心思っていたので、先ずは一安心だ。

しかしこの先からはガスに覆われだし、根気よく周りを凝視しないと進路が定まらない。そのため速度がぐっと遅くなる。それでも雪庇を避けながら何とか進んでいたが、Co990mに登り返す手前の下降地点で、いよいよ先に進むことが困難となった。地形図では両側に毛虫マークが付いている所だ。宮内さんが雪庇確認紐で地形を探って下さっているが、ここは視界が利かないと下降は困難だ。この状況ではロープを出したところで突っ込む気になれない。

風雪の中、アイゼンとスワミベルトを装着して暫く視界の回復を待ったが叶わないので、今日はこれ以上進むのを諦めることにする。一杯森まで戻って見たところで適地が約束されている訳ではないので、なるべく手前で風の当たらない場所を求めた。間もなく、除雪は避けられないだろうが、まあ何とか安全そうな場所が得られたので、少し掘り下げてテントを張った。結果的には除雪の必要もなく助かったが、一晩中喧しかった。

(棚橋記)

【ザックを下ろして】

天気良くなるかと思ったらホワイトアウト。やっぱり冬山は大変なものでした。今日は借金作ってしまった。(佐貫) / 一杯森までは何とかなつたものの、その先は通してもらえなかった。明日、頑張ろう。(棚橋) / やはり年末の山は甘くない。予定通り進まなかったけど、欲張らずいこう。(田村) / (最初は) 適度な風雪で余裕(そのうち) ちょっと風が強いかも(でも) 11時には一杯森に着いて順調と思わせた。(が、) ホワイトアウトで身動きできず、仕方がない。早いですが泊まりますか(みたいな)。(宮内)

12/31 晴れのち雪のち晴れ

一晩中テントをばたつかせていた強風も、出発する頃には多少おさまってくれた。昨日ガスの中彷徨った下降地点も、見通しが利けば全く問題ない。まずは槍ヶ先あたりを目標に進むが、視界が良くなった分、今日のルートがやたらとアップダウンを繰り返すのが手に取るように分かる。進む前からうんざりだ…。大尺山あたりまではよく晴れて稜線散歩という雰囲気。クリスマス寒波で一気に増えた積雪のためなのだろうか、雪庇



やっと晴れた～

のつけねあたりにはダーッと亀裂が入っておりオソロシイ。まるで3月頃の山のようなのだ。

やっと青空のもと山を歩けると思いきや、火打岳への最後の登りにさしかかる頃にはまたもやガスが出てきて晴天はどこへやら。確か2006年11月に来たときにも似たような天気だった。誰がガス男(女)なんだろう。雪面だと思って登っていても灌木を踏み抜いて腰まではまって四つん這いになったりして悪態をつきたくなる。展望も何

もない山頂に立ったのは13時を過ぎてしまい、風も強いので証拠写真を撮って早々に下りにかかった。急な下りをアイゼンに履き替えて通過。再び尾根が広く緩くなり、足をスノーシューに戻してc 1071m辺りに幕営適地がないだろうか探しながら歩く。

次第に天気は回復してきた。地形図上で目星をつけていた場所は大きく適地とも言えず、先頭を歩いていた宮内さんはズンズンと進んでいく。15時半を過ぎ、もうすぐ火打岳と小又山のちょうど中間あたりかというあたりで何とかかなりそうな場所を発見し(というかそこを何とかしようということに決めて)、大晦日の行程は大々的な整地作業で幕を閉じた。(佐貫記)

【ザックを下ろして】

なかなか風止まず。踏み抜きが多くて消耗した。さて明日はどうなるか…。(佐貫) / 朝振り返ると思いのほか立派な一杯森。美しい稜線でした。ただ火打岳あたりはガスって残念。明日は見えるといいな。(田村) / 晴れるかと思いきや、結局小雪の中を終日歩く。夕刻になって晴れてきても遅すぎるというもの。でもお蔭様で16時まで歩けた。今日も感謝。(宮内) / 視界が開けると、ここが里山であることが実感できる。踏み抜きが甚だしく少々疲れたが、明日も頑張ろう。(棚橋)

1/1 晴れのち曇り

平成24年も山からスタートだ。今日、神室岳を正午までに越えられれば、その先の水晶森方面に向かおうという方針で臨む。天気は上々、初日の出も拝むことができた。しかし地図をみると、神室岳は気が遠くなりそうなほど遠い。そもそも今日中にそこまで辿り着くことさえ危ぶまれる。最初のサンショ平までは緩い上りが続き、楽勝かと思っただが、思ったより時間がかかった。そこから連峰最高峰の小又山までは一投足のように見えたが、踏み抜きだらけで消耗することおびたしい。ようやく着いた山頂からは、月山や栗駒山、虎毛山など東北の名だたる山々がよく見え、素晴らしい景色だ。遠くに見えていたのは太平山だったかもしれない。

しかしここから神室山はまだまだ遠い。しかも天気は徐々に悪化の兆しを見せていた。鳥海山の山頂がガスに覆われている。神室山で視界がなくなっはたいへんと、先を急

ぐ。幸いその後そんなに悪くはならず、無事神室山頂。すでに13時を回り、鉤掛森まで行くのは最終日までかかることから、前神室山経由で下山することに決めた。近くに見えた前神室山へも2時間かかり、そこから少し下ったあたりでテントを張った。明日は下山なので、残った食料を遠慮なく使ったの宴となった。お酒も飲み切ったので、もう下りるし



前神室山にて。主稜線踏破！

かない。(田村記)

【ザックを下ろして】

丸一日の好天は山の神様からのお年玉？月山に見守られながら歩いて縁起の良い元旦でした。(佐貫) / 天気が良いとこんなに順調に進めるのかということが認識できた一日でした。東北の名山を眺めながらの行程は最高でした。(棚橋) / 何だか天気が悪いなあと思ったり、思うように進まないなあと思ったりしているうちに最終日にはいつの間にか帳尻が合ってきたようだ。もっとも、本来の予定通りのルートではないけれども。水晶森は、ちょっと行って見たかったね。(宮内) / 神室山から振り返ると、遙か遠くに火打山。よくぞ歩いてきました。水晶森には行けなくとも、大満足です。

1/2 曇りのち晴れ

今日も予定時刻を少し遅れての出発となる。目の前の小ピークを越え、北に進路をとる。下り始めが尾根の形状をなしていないので、念のため少し戻って現在地確認を行う。間違いなかったので再出発。Co1095mの第二ピークは左側をトラバースしたので道標を見なかったが、おそらく有ったのではないかと思う。

Co1050mの第一ピークも過ぎ、このまま一気に下ってしまうのは名残惜しいのでCo920m付近で一本取る。今日も気持ちの良い天気になった。Co831m付近で夏道沿いに方向を変え、更に下って行くと役内口の登山口へ下り立つ。少し先を見ると見覚えのある案内図があった。立木からの爆弾に怯えながら植林帯をもう一頑張りすると立派な鳥居が我々を出迎えてくれた。ここで神室山の神様に無事下山できたことの御礼と、今年一年の安全を祈念した。

更に除雪されていない道を役内集落に向かって進んでいくと、にこやかな方々が我々に微笑みかけている。秋田の人は随分とフレンドリーだなあなどと考えていたら、この御一行は田村さんの御友人達であった。実に暖かいお出迎え受けたばかりではなく、御自分達の湯治宿に案内して頂き、美味しいお酒とつまみで歓待して頂いた。その上、遙々新庄駅までも車で送って頂いた。本当にありがとうございました。お別れした後、バスで1時間も揺られ、肘折温泉へ。いい湯と美味しい食事です改めて今回の山行の成功を祝った。(棚橋記)



【メンバーの感想】

今回もいい計画、いい仲間恵まれて、楽しく充実した年末山行をすることができ、満足である。お互い体力は下降気味だけど、一年後もぜひやりましょう。できれば新しいメンバーも加わってほしいね。(田村)

水晶森・鉤掛森は逃したけれど、とりあえず「全山縦走」と名のつく山行が出来て本当に良かった。今年も名ばかりのリーダーでしたが、力強い(そしてやたら長い)ラッセルで行程を引っ張り、楽しい会話、充実つまみと食事毎日盛り上げてくれたメンバー各位に心より感謝します。(佐貫)

杣蔵山には11年ぶり、神室山には4年ぶりであった。その時は視界が悪く気が付かなかったが、ここはみちのくの名山を一望できる展望台だった。

良いエスケープルートが計画されていたので、早々に敗退する心配もなかったし、杣蔵山荘を利用できたためか体感的には行動日数の5日間も、とても短く感じられた。

今回も充実した山行を行うことができ、メンバーに感謝します。(棚橋)

【行程】

12/29 上山屋集落(8:28)～杣蔵山荘C1(13:43)

12/30 C1(6:22)～杣蔵山(7:38)～仁田(9:17)～一杯森(11:15)～Co970m付近(11:58/12:38)～Co960m付近C2(13:10)

12/31 C2(6:46)～烏帽子山(9:01)～槍ヶ先(9:48)～中先(11:02)～大尺山付近(11:55)～火打岳(13:19)～Co1070m付近C3(15:54)

1/1 C3(6:59)～小又山(9:10)～天狗森(10:37)～神室山(13:20/30)～前神室山(15:15)～第三ピーク(15:35)～Co1215m付近C4(15:49)

1/2 C4(6:55)～Co1170m付近(7:03/33)～第一ピーク(8:05)～役内登山口(9:22/26)～林道(10:01/08)～役内集落(10:21)

【地形図】

新庄、瀬見、神室山、羽後川井、秋ノ宮

【GPSデータ】

	直線移動距離 (km)	歩行距離 (km)	累積標高差 (+m)	累積標高差 (-m)
12/29	7.663	7.869	943	172
12/30	4.312	4.487	466	454
12/31	8.144	8.544	1,025	909
1/1	10.313	10.651	1,080	933
1/2	6.396	6.66	261	1,176
合計	36.828	38.211	3,775	3,644

神室連峰 概念図
(作図：佐貫)

